

現場運転ヲ作成

水道O & M研究会 通常総会

代表幹事に多根井氏

小規模施設
の運転管理 山村課長が講演

水道O & M研究会（藤田賢二会長）は6日、東京・飯田橋のホテルメトロポリタンエドモントで第5回通常総会を開き、水道事業の民間委託・民営化を検討し、また技術や品質の向上に努める内容の平成19年度事業計画案等を審議し、決定した。役員改選では、藤田賢二東京大学名誉教授の会長再任、多根井敏夫月島テクノメンテサービス社長の代表幹事就任を決めた。総会終了後には、厚生労働省の山村尊房水道課長が水道施設の運転管理に関する講演を行った。

総会冒頭、大石直行代表幹事が挨拶し、「水道事業の第3者委託はまだまだ進んでいないが、そのメリットは大きい。業界の活性化のため、今後とも努力が必要」との認識を示した。

昨年度同研究会は、日本水道協会の「水道事業における調達方式のあり方に関する検討会」の立ち上げにあたり対応を行うなど、水

道関連団体の活動に協力するとともに、中央官庁・水



山村課長



藤田会長



多根井代表幹事 大石前代表幹事



満員となった山村課長の講演会場

道関連団体・水道事業体への要望活動を行った。また、水道浄水施設管理技士の試験講習会や、東京都水道局研修・開発センターの見学会を開催した。

今年度は、水道事業体からの講演や説明の要請に対する対応を決定した。また、新たに安田浩二東芝アクアパブリックテクノス社長の副代表幹事昇任、横島澄男エム・エス・ウオーター社長の監事就任を決めた。

多根井新代表幹事は「われわれの業種は今後の成長が見込まれる分野であり、前代表幹事を引き継いでしっかりとやっていきたい」と就任挨拶した。

総会終了後、厚生労働省の山村水道課長が「小規模水道の運営管理強化」について講演。厚生労働省が水道技術研究センターに調査委託し、立ち上げられた「小規模水道の運営管理に関する検討委員会」の調査結果を中心に講義。施設管理区域の変更や遠隔監視システム導入による業務の改善状況を紹介した後、同研究会に対しては、「O & M関連ノウハウの蓄積や幅広い業務に対応できる人材の確保等によって、水道事業の発展へ貢献してほしい」と期待を表した。